【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第３区分
【発行日】平成25年8月29日(2013.8.29)

【公開番号】特開2010-111789(P2010-111789A)
【公開日】平成22年5月20日(2010.5.20)
【年通号数】公開・登録公報2010-020
【出願番号】特願2008-286166(P2008-286166)
【国際特許分類】
Ｃ０８Ｆ 214/22　(2006.01)
Ｃ０８Ｆ 216/14　(2006.01)
Ｃ０８Ｊ　3/24　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｃ０８Ｆ 214/22
Ｃ０８Ｆ 216/14
Ｃ０８Ｊ　3/24　ＣＥＷＺ

【手続補正書】
【提出日】平成23年10月11日(2011.10.11)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００７】
このことは、本発明で用いられる臭素基含有不飽和化合物がより長鎖化しているため、ポリマー組成の一つである耐寒性モノマー $CF_2=CFO〔CF_2CF(CF_3)O〕_nCF_3$ による立体障害を回避することができ、そのため架橋効率が上がり、耐圧縮永久歪特性が向上し、一方でその構造から架橋点間分子量が伸びるため、伸び特性が維持されているものと推測される。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００８
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００８】
含フッ素エラストマーの共重合組成比は、(a)フッ化ビニリデンが50～85モル%、好ましくは60～85モル%、(b)パーフルオロ(メチルビニルエーテル)が7～20モル%、好ましくは7～17モル%、(c)前記一般式で表わされるパーフルオロビニルエーテルが3～15モル%、好ましくは3～10モル%、(d)前記一般式で表わされる末端臭素化パーフルオロビニルエーテルが0.1～2モル%、好ましくは0.3～1.5モル%であり、これらの組成比は所望の常態物性、特に伸び特性と耐圧縮永久歪特性のバランス性にすぐれた架橋物を与え得る範囲として選択されたものである。